

平成30年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
(1) 諸室を活用した各種事業の実施	ア 常設展示室を活用した取組み	継続して展示ストーリーの見直しを図ります。 変わり続ける常設展示を目指し、常設展示の中でもミニ企画展を開催します。	解説パネル等を合わせて設置 6回/年2カ月程度で展示更新	解説パネル等を合わせて設置 トピックスコーナー 6回 プチギャラリー前 10回 常設企画展 1回 ミニ企画展 2回	解説パネル、パンフレットなど設置を実施 A	【成果】 企画展では下半期に強力なラインナップを揃え実施。「Kawaii展」「ひつじのショー展」第二企画展として「初音ミク展」など新たな客層を開拓する展示を実施。今まで少なかった男性客も多から来館され、入館者数・ショップ売上共大きな成果を出すことができた。企画展関連プログラムも9プログラム増加させ、来館のきっかけを増やしSNSを活発に活用した。 常設展示に関しても「平田郷陽展」を実施しテレビ番組で取り上げられシニア層の来館に大きな効果がでた。	【評価できる点】 ・来館者が分かりやすいよう解説パネル等を設置している点。 ・教育普及プログラム等、回数が増えており、学校連携に前向きに取り組んでいる。 ・企画展と企画展の合間にもイベントを実施することで、来館者を増やす工夫がされている。 ・多目的室の第2企画展「初音ミク展」は大変好評で、新たな客層の方もいらつやった。またアマチュア作家を支援した企画展等、様々な企画展を開催された。引き続き魅力的な企画展を開催してもらいたい。 ・観光コンベンションビューローと連携して、中国語による情報発信を行った。横浜に来訪する外国人は中国人が多いため、今後続けてもらうことで効果を検証してもらいたい。
		展示を活かす教育普及プログラムを実施します。	ギャラリートーク/解説ツアー 学校団体向けプログラムの実施(10種類を提案) 学校側の要望の取り入れ	要望に合わせて実施 8団体 個人に対しては複数実施 団体数 12団体/10種類 随時要望に合わせて実施	学校、シニア団体や障害者には積極的実施 A DOLL NEWSへの告知などの効果により学校団体によるプログラム利用が多い A 学校の先生と個別に打合せを丁寧に行い、個々の要望に応えられるよう調整や変更を行い、利用者の要望に合わせた対応変更なく予定の企画展はすべて実施		
	イ 企画展示室を活用した取組み	繁忙期の満足度アップ、閑散期の集客などを考え、企画展を3つの種類に区分し、実施します。 展示を活かす教育普及プログラムを実施します。	企画展を年間6本	6本	B	体験型プログラムの利用者が多く、募集人数を大きく超えるプログラムもあり、テストとして平日実施のプログラムも運用した	【改善が必要と考えられる点】 ・テレビ番組に取り上げられた際に行った平田郷陽展のように、常設展も企画展と同じぐらい、内容や展示方法等、アイデアを出してほしい。 ・あかいくつ劇場の貸付でピアノコンサートが定着している一方、利用状況が目標を下回っているため、今後の有効利用を検討してもらいたい。 また出張ワークショップについても今後の在り方を検討してもらいたい。
			関連プログラムの実施	38事業	A		
	ウ あかいくつ劇場を活用した取組み	より多様な人形劇を鑑賞できる機会と場を創出します。 人形劇の可能性を広げるとともに、より多くの方に人形劇に親しんでいただくため各団体と連携した取り組みを強化します	□人形劇メルフェンフェスティバルを実施します 2日実施 □アマチュア劇団による新春人形劇を実施します	人形劇メルフェンフェスティバル 2日実施 新春人形劇実施	B	横浜市内外のアマチュア人形劇団などのサポート公演やそれに関連したふれあいコーナーなどを設置、人形劇にふれあう場の提供を行なう	多目的室・プチギャラリー・イベントスペース・あかいくつ劇場も積極的に活用を行い第二企画展も4企画・1事業を実施、プチギャラリーでは「初音ミクショップ」など話題性がある企画も実施、イベントスペースでは23事業ものプログラムを実施、あかいくつ劇場では初音ミクコンサートなど多数の企画を実施し館内全域を使用した。 広報活動はSNSを中心とした活発な情報発信を行い、小学生に有名なYouTuberにKawaii展の情報を発信していただいたり、今勢いのある企業とコラボレーションをしたり、昨年よりもプレスリリースの発信件数も増加させ、横浜観光コンベンションビューローと連携し中国語のSNS発信や中国語ホームページのテスト運用も行なうなど積極的な広報活動を実施した。 昨年度課題あげていた企画展の入替え時には他の企画展や体験イベントなどを開催し来場者の落込みを減少させた。また体験イベントは回数・定員を増やす以外に平日開催も行い、平日しかこれないお客様などの利便性向上につなげた。
			□映像上映会などを実施します □企画展と連動したキャラクターショーの実施します	音楽コンサート 12回 映像上映会 2回 キャラクターショー 1回	A	音楽コンサート、映像上映会、キャラクターショーなど多彩な企画を実施	
			団体向け休憩場所として提供します	状況に応じて随時実施		あかいくつ劇場の認知度拡大にも繋がった	
			人形に関する動画上映を行います	20回	B	あかいくつ劇場の認知度拡大にも繋がった	
	エ 多目的室・プチギャラリーなどを活用した貸室以外の取組み	第2企画展示室 3階の企画展示室とは別テーマの企画展を同時に開催します 特設物販コーナー 人気の高いと想定される企画展の際には、関連グッズを販売する特設物販コーナーとして運用します プチギャラリー 情報コーナー 人形に関わる図書、雑誌を閲覧できるミニ図書コーナーとして運用します エントランス 横浜市の最新動向、トピックス、まちのさまざまな話題を紹介するミニコーナーとして運用します イベントスペース イベントコーナー 誰もが気軽に参加し楽しめるイベントを開催します	4企画展 1事業	B	関係団体との連携や若手作家の展示支援、トライアル企画など、企画展とは違った人形文化の紹介を実施		
			4事業		企画と連動した特別販売会を実施		
			図書コーナー設置 企画展関連イベント 9事業 プチプレゼント企画 5事業	A	図書内容は随時更新を実施、企業連携など多種多様な企画を行ない、多目的に活用し認知度向上につなげた		
			チラシ設置 イベント実施 9件 プロモーション 2件	A	情報内容は随時更新を実施、物販の特別販売、企業連携、フォトセッションの設置など外から見えるエントランスの特製を活かした内容を実施		
	体験プログラム 23事業 ※多目的室実施プログラム含む	A	多くのお客様に利用していただけるよう多種多様な複数のプログラムを実施				
					【課題】 常設展示ではトピックスコーナー以外の人形の入替えが行なえていないので、リピーター対策として今期は入替えを実施していく。入館者数が伸びないときなどイベントを積極的に行なっていくために、プログラムの開発を行なっていく必要がある。		

平成30年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
オ	活発な情報発信と広報活動	パンフレット、ホームページ、SNSを活用	□中国語対応パンフレットを作成 □プレスリリースの定期的な発行 6回/年発行	中国語HPテスト運用 プレスリリース 18回 AI端末実証実験クーポン	A	積極的なプレスリリースの発信、増加している中国人に対する中国語ホームページのテスト運用を実施	
		各イベントのターゲットに適した媒体の情報収集とアプローチを行います	□施設案内やイベント情報の提供として DOLL NEWS」を発行し、横浜市小学校、近隣施設へ配布 2回/年発行	DOLL NEWS 2回発行 横浜駅広告 1回 修学旅行協会告知 1回	B	新規に修学旅行協会の協力を得て月刊誌への無料告知を実施	
		関連施設等で、パンフレットの設置や、人形の展示やワークショップを行い、PR活動を行います		近隣・関連施設へのパンフレット設置 マリンタワー展示 5回 市庁舎 2回 友の会チラシ作成 1回	A	近隣・関連施設・市庁舎など幅広いPR活動を展開	
		広報イベントや出張ワークショップを実施します		出張イベント 1日	B	観光進行協議会と連携し実施	
		キャラクター「ドルティ」を有効に活用し、施設のPRを図ります		4回	B	施設付近にてドルティ着ぐるみによるPRを実施	
		観光情報コーナーの設置 エントランスホールの一隅に観光情報コーナーを設けます		AI運行実験参加 情報コーナー、図書コーナー設置	B	チラシなどの情報は随時更新を行い、あらたにAI運行実験に参加	
(2) 人形文化の振興と人形劇団の支援	アマチュア人形劇団の支援	■発表の場の提供 空きスペースを利用し、市民や大学サークルの劇団の方に人形劇などの発表の場を提供します		4事業	B	アマチュア人形劇団に発表の場を提供するほか、勉強の場や話し合いの場として場所の提供を実施	<p>【成果】 アマチュア人形劇団との連携も3年目入り活動も活発になり、劇団員とのコミュニケーションも徐々に円滑に進み、昨年度の課題を活かすなど年々演技内容が改善され公演内容についても向上している。劇団員との情報交換も活発になっており、人形劇の告知も双方で行い、少しずつではあるが支援が入場者数の結果として行っている。 体験型プログラムも2事業実施し、子どもたちとのふれあいや人形文化の振興につながっている。</p> <p>【課題】 多数の劇団との調整などかなり調整量が多く、コミュニケーションの難しさがある。</p>
		■メールボックス・掲示板の設置 公演の案内や団員募集などができる掲示板をエントランスホール及び劇場ホワイエに設置します		随時更新		随時内容を更新し鮮度ある情報を提供	
		■館の広報ツールでの紹介 館として運用するフェイスブックなどのSNSなどで、各人形劇団を紹介したり、各種の告知を掲載するなど広報に協力します		随時実施		各団体と個別に話し合いを行い、イベントチラシやSNSなどで告知を掲載し、人形劇団の紹介も実施	
	人形文化の振興	■空きスペースを利用して、人形劇人形の展示を行ないます		随時展示更新		展示物を随時更新	
		■体験型人形劇プログラムの構築		2事業	B	ふれあいの場として人形劇の体験型プログラムを実施	
		■多種多様な人形劇紹介映像の上映		要望に応じ随時対応		2種類のDVDを用意し、要望に合わせて上映紹介	
(3) 連携事業の充実	「地域連携」「小中学校連携」「大学連携」の3つの連携で、横浜人形の家を観光振興拠点・文化振興拠点としてさらに活性化させます。	■山下公園地区・みなとみらい地区・JICA横浜海外移住資料館等の観光文化施設や商業施設との連携活動を行います	□関連イベント実施 ・ダンスフェスティバル ・ワールドフェスタ横浜 ・横浜山手西洋館ハロウィンウォーク	共通チケット 2事業 連携協力 15事業	B	多くの連携先と協力事業を実施。ダンスフェスティバルやハロウィンウォークなど大型イベントにも積極的な活動を実施	<p>【成果】 地域の取り組みや総会、横浜市の会合などには積極的に参加し、昨年度以上に取り組み、連携協力も15事業実施しチラシの設置や告知協力など集客につながることができた。また、DOLL NEWS以外にも学校との連携として中学生の職場体験も1校実施し、先生と相談しながら生徒が作った作品も館内に展示した。また高校生インターシップや大学との連携も行なうことができ、昨年課題とされていた教育機関との連携が少しずつではあるが進みつつある。</p> <p>【課題】 職場体験、インターシップなど継続的に実施が出来るよう関係機関との情報交換を行なっていく。</p>
		■市内の小中学校を中心に誘致活動を行い、教育の場を提供します		3件 職場体験実施 1校	B	中学校の職場体験を実施、活動の成果として学生の作品を館内に展示	
		■アウトリーチ活動(出前教室)で活用する貸し出しキットの運用を行います		実施なし	C	実施なし	
		■教員向けの当館の利用案内を配布します		団体向け利用案内配布 2回	B	DOLL NEWSの配布と電話対応を実施	
		■要望に応じて、生徒の職場体験、教員の異業種体験研修を受け	□大学と連携したワークショップ	1校	B	大学のゼミ生受け入れ実施	
		■市内の大学・専門学校を中心に連携を進めます		3校	B	学園際での協力関係を築く	

平成30年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況	
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明
(1) 集客拡大及び施設の活性化 ア 利用者数の拡大 イ ショップ・カフェ活用したサービスの充実 ウ 駐車場の安全管理と利用者の拡大	ア 利用者数の拡大	利用者数目標	□7万人	79,277(有料入館者65,368)	A 入館者数79,277人
		■集客の見込める展覧会期間中の特別開館日	□繁忙期やイベント時は、随時延長営業いたします	特別開館1回 無料開放3回	B お客様の利便性や市・国の方針に合わせた運営を実施
		■貸館に関するパンフレットなどの印刷物を制作します		随時設置	適時マイナーチェンジをしながら運用
		■学校、地域団体、周辺施設へご案内をします	□あかいくつ劇場利用率60% (夜間コマを除く) □多目的室利用率70%	あかいくつ劇場利用率 43% 多目的室利用率 68%	C あかいくつ劇場はお客様の利用ニーズが高いため貸室優先、多目的室は自主事業を中心とした運用を実施 芸能プロダクションへの紹介実施 C 駐車場の1台割引サービスを実施
	イ ショップ・カフェ活用したサービスの充実	■展覧会関連商品コーナーの設置		10回入替/	B 企画展、第2企画展の変更に合わせ商品を入替えを実施、その他、プライスなど随時商品入れ替えを実施
		■企画展の内容により特設売店を設置します。常設ショップと相互に売上向上につながるよう商品構成、販売促進を行います		4企画展示販売実施	B 第2企画展示会場内、プチギャラリーにて特設販売ブースを設置
		■人気の人形関連グッズ、タイムリーな季節商品の拡充を図る為に、取引先の新規開拓を行います		随時、新規開拓	適時メーカー情報交換を行い、人気商品の仕入れ・販売を実施
		■オリジナルグッズの開発を行います		9種類	B 企画展と連動したオリジナル商品の開発・販売を実施、館の魅力をアップさせる
		■イベントによる割引特典、福袋・実演販売など話題性に富んだショップ情報を発信します		17商品販売	B 市場で希少性の高い話題の人形を販売
		■定例ミーティングを行い、情報を共有し、人形の家に対応しい飲食施設としての質とサービスを確保します		適宜実施	企画展情報や地域情報の交換、問題点などの共有など打合せを随時実施
		■シアトルで修業を積んだ日本有数のパリスタによるラテアートを提供します		適宜実施 シアトルでの研修実施	1月にシアトルでの研修に参加
		■イベント・企画展と連動したサービスを提供します。		3事業	B 展示と連携したメニューの提供
ウ 駐車場の安全管理と利用者の拡大	■常駐スタッフによる安全管理・情報収集活動 施設利用者及び地域における情報の収集・分析・危険発生事例の検証など		適宜対応	横浜市や警察、近隣地域などからの情報を基に管理運営を実施	
	■バス会社、旅行会社へ積極的なアプローチを行い利用拡大に努めます		適宜対応	旅行会社から連絡が入った場合は必要に応じてアプローチを実施	
	■ドライバーから分かり易い案内表示を見直し改善します※料金設定については、利用者ニーズ、周辺の状況に応じて、適宜、見直しを図ります		誘導看板の2箇所設置	B 歩行者やドライバーから分りやすくなるよう、館外に誘導看板を2箇所新規に設置	

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】 企画展、第二企画展をメインに多数のイベントを企画し、多数のお客様に観覧していただいた。イベントについては事業数・日数・回数など昨年以上に実施し、企画展を盛り上げ多くのお客様に来館していただくきっかけ作りができ、企画展と連動したオリジナル商品も積極的に作成し話題づくりや、ショップの売上アップに貢献し、ショップの売上は過去最高の約3,600万円の売上を達成した。 また、お客様への利便性向上や館の質を向上させるために、特別開館や無料開放の実施、カフェのシアトル研修参加、元町中華街駅からの誘導看板を2箇所新規に設置し、利用者数の拡大に努めた。</p>	<p>【評価できる点】 ・企画展のみならず第2企画展も実施しており、指定管理以前に比べ入館者数が増えた点。 また企画展と連動したオリジナル商品を販売することによって、さらに入館者を呼び込み館の運営が活発となっている。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ・ミュージアムショップにも尽力いただいているが、ショップの位置が客動線から外れていること、館のスペースに限りがあるため在庫管理が厳しいことなどから厳しい状況。</p>
<p>【課題】 企画展と連動したオリジナル商品の作成も継続してチャレンジしていくが、在庫処分の方法や実施を検討していく。</p>	

平成30年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(2)安全かつ快適で効率的な運営	ア 専門性を有する人材配置と共同事業体のノウハウを生かしたスタッフ育成	<p>■事業グループと総務グループを配置</p> <p>■館長と副責任者はマネージメント業務経験者、同種施設の運営経験者を配置します。</p> <p>■学芸員は学芸業務経験者を配置します</p> <p>■丹青社・東急コミュニティーのノウハウを活用して十分な研修を実施。本社・現場がチーム一体となって質の高い運営を実現します</p> <p>■指定管理業務開始後も、共同事業体の社員教育ツール・システム等を活用しつつ、継続的なフォローアップ研修を実施し、業務に対するスタッフの高い意識・姿勢を維持・持続させるとともに、各人の能力・スキルのさらなる向上を図ります</p> <p>■目標管理(業績評価)と業務実力評価を実施します。スタッフの業務・能力を適切に評価し、スタッフの成長とやる気を喚起します</p> <p>■日常的なOJTを実施します。</p>	□常勤6名配置	常勤6名配置	B	提案書通りに配置	<p>【成果】 今期は個々のスキルアップを積極的に実施するために、社内研修や外部研修へ多く参加した。学芸員が参加した研修は展示や収蔵品の保存に活かせる内容のものに参加し、研修後は直ぐに実行した。また接遇研修や消防研修などいざという時に実行できるよう、より実践的なものに参加。特に障がい者と呼んで取り組んだ研修は多くのことを学び、施設運営に役立つことができた。 収蔵品の管理に関してはポジフィルムのデータ化や落下防止ベルトの追加、写真の保存方法の改善、温湿度の機械修繕など少しずつではあるが環境改善を進めている。 保守・修繕に関しては今年度より実施箇所や今後の修繕予定など一覧表にまとめ、進行状況などの管理ができるよう工夫を行い、老朽化が激しかったエントランスロゴと屋根の補修も実施し、すばやい対応を心がけも洩れがないよう実行した。</p> <p>【課題】 収蔵品管理に関しては継続的改善が必要なため、継続して落下防止ベルトの追加、写真の保存方法の改善、書籍類の整理など所管と協力し実行していく。修繕に関しては館の老朽化が進んでいるため、所管と常に情報交換を行いながら取り組んでいく。</p>	<p>【評価できる点】 ・展示や収蔵、接遇、消防等、運営に関わる様々な研修に積極的に参加し、30年度大きなトラブルもなく質の高い運営ができています。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ・館の老朽化を踏まえ、今後の館の維持、修繕をどのように進めていくか市と連携してもらいたい。施設の補修箇所の洗い出し、修繕の重要度のレベル分けを常時行い、今後ハード面においてともに館の在り方を検討して行ってもらいたい。 ・収蔵品管理について中長期計画を策定してもらっているため、今後どのように管理していくのがよいか共有してもらいたい。 ・収蔵品データが膨大にあるため、今一度確認し整理を進めてもらいたい。</p>
				館長、副館長配置	B	配置済み		
				学芸員配置	B	配置済み		
				社内監査 1回 行政監査 1回 部門長会議 3回	B	丹青社社内監査、行政監査など本社と一丸となった対応を実施		
				外部研修 9回 社内研修 7回	A	外部研修への積極的な参加、講師を招いての研修など、質や回数など強化しスタッフ個々のスキルアップを実施		
				□企画展事前レクチャー1回 □接遇研修1回	B	個々のモチベーションアップを目的とした本社を含めた指導を実施		
	イ 収蔵資料の保存、管理	<p>■日常の管理を徹底して行います。(清掃・見回りを定期的に行います)</p> <p>■現状の問題点、改善点を把握し、中長期計画を作成します</p> <p>■ポジフィルムのデータ化</p> <p>■未整理資料の内容把握、管理計画案を作成</p> <p>■湿度・湿度管理 22℃(季節によって緩やかな温度の変動はあるものとする)、相対湿度は60±5%を基準とします</p>		適宜実施		巡回時に清掃などを実施		
				適宜対応		学芸員を中心とし、現状の問題点を共有しながら優先順位を共有		
				写真保存方法の改善 適宜対応 研修会 2回	B	ポジフィルムのデータ化を進めつつ、外部研修会にも参加し、未整理資料の保存方法の改善内容を共有		
				実施		収蔵庫の温度湿度設備の修繕実施。館内湿度調整機材を設置。		
				毎月集計実施	A	アンケート、スタッフ聞き取り、Webご意見を毎月集計		
				実施	A	他施設のクレーム内容・対策を館内共有しクレーム防止に努める		
ウ 苦情の未然防止と発生時の対応	<p>■利用者との会話やアンケート調査等を通じて、利用者の意見・要望等を把握します</p> <p>■丹青社や東急コミュニティーが運営する施設での苦情事例等を踏まえつつ、未然防止策や発生時の対応策を検討し、マニュアルを作成し</p> <p>■苦情防止・対応等を含めたスタッフ研修を行います</p> <p>■事実に基づく対応(現場・現実・現物主義)を基本とし、十分な事実確認を行った上で適切な措置(お詫び・謝罪、賠償等)を行います</p> <p>■苦情内容などを速やかにスタッフに報告するとともに、市への報告も迅速に行います</p> <p>■苦情等の内容や処置、原因・防止策等の情報を蓄積し、苦情防止・対応マニュアル等を継続的に改訂します</p>		実施		接遇研修を実施			
			適宜対応	B	十分な調査を基に対応を実施			
			適宜対応		横浜市へ随時報告・相談を実施			
			適宜対応		継続改定を実施			
エ 安心、安全、安定、快適な施設の維持管理について	<p>■機器の留意点を理解した空調管理をします</p> <p>■破損、盗難を未然に防ぐ日常巡回を実施します</p> <p>■点検記録簿を活用し、貸出備品の適切な管理を行います</p> <p>■貸館、貸室入替え時の清掃の実</p> <p>■予防保全の考え方にに基づき、日々の点検で不具合箇所の早期発見に努めます</p> <p>■多重チェックにより、施設補修箇所の洗い出しと修繕重要度のレベル分けを行います</p>	□年1回、館内全スタッフにて「館内一斉総点検」の実施	1回	B	施設管理・スタッフにて日々チェックを行い、一斉点検も実施			
			実施		施設管理にて随時実施			
			実施		事務所、施設管理し定期巡回を実施			
			実施		事務所に随時実施			
			実施		事務所、清掃要員にて随時実施			
			実施		修繕終了箇所及び修繕優先順位をまとめ、横浜市と共有し計画的な修繕を実施			

平成30年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
	才 危機管理対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■消防訓練を実施し、職員の防災意識向上を図ります ■消防法を遵守した施設管理を行います ■危機管理マニュアルは常に最新のものを整備します ■安全な現金管理を行うため、金庫内の現金を営業日に確認し、現 ■営業日の売上げ集計は複数名で確認して、確実にいきます 	<ul style="list-style-type: none"> □消防訓練を年2回実施します 	<ul style="list-style-type: none"> 防災研修2回 消防訓練3回 実施 実施 実施 実施 	<ul style="list-style-type: none"> 消防訓練以外にも外部防災研修にも参加し、防災技術・意識の向上に努める 施設管理にて日々館内巡回を行い法令を遵守した管理を徹底 新たに案件が発生した際にリバイスを実施 現金管理は日々実施 スタッフ・経理にて複数チェックを行いミスの無いよう実施 		

平成30年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況	
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明
収支予算	収支計画 収支バランスの確保	■収支予算計画に基づき、月ごとの実績値の管理及び分析・検証を行い、必要に応じて見直しを図りながら収支バランスの均衡を確保する		適宜実施	チェック 昨年の結果も参考にしながら、毎月支出と収入の金額を把握し、金額を適時調整、収支バランスの均衡を確保した
	収入 事業努力による各種収入の確保	■企画展をはじめとした活発な各種事業の実施及び広報活動により施設の利用者数を増やし、収入の確保を図る		適宜実施	企画展を中心に広報や関連イベントを実施し利用者数を確保。また、オリジナル商品の製作などショップ販売にも力を入れ収入を確保した
	支出 効率的な運用、コスト削減	■事業費の効率的・効果的な執行。事務経費、光熱水費をはじめ日常的な経費削減に努める		適宜実施	事業費を中心とした支出をメインに行い、消耗品・施設管理費は削減に努め、コスト管理を実施した

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】 上期は集客に苦しみ、収入がショートし厳しい状況であったが、下期は集客が目標以上となり、上期の入場料収入のマイナスをカバーし、ショップはオリジナル商品の販売好調に支えられ過去最高の売上を達成し、年間トータルとして収支バランスの均衡を確保した。</p> <p>【課題】 集客力を高めるためにはメジャーなコンテンツを活用した企画展の実施が重要だが、コストが掛かるため開催日数など費用対効果を考えると企画展の数を減らすなど調整が必要。</p>	<p>【成果】 少ない収入源の中で、企画展、広報、関連イベント、オリジナル商品等、様々な面から民間企業ならではの工夫がなされている。</p> <p>【課題】 次期指定管理期間において適正な指定管理料を算出するため、運営、維持管理とあらゆる面で今後の在り方を考えていく必要があり、適宜協力してもらいたい。</p>